

# 半世紀前からの

「今、蘇る『文集』」

## 贈り物

蒲郡市民間大使  
内田雅敏プロフィール  
蒲郡町生まれ  
東京弁護士会所属  
著書「乗っ取り弁護士」、  
「これが犯罪? ビラ配りで  
逮捕を考える」など多数

前号までのあらすじ

内田氏に届いた文集。それは、彼が小学2年生のときのものだった。懐かしさのあまり文集を開くと、そこから先生たちが文集の作成に懸ける意気込みが伝わってくる。そして、同級生たちの花、犬、お正月など題名ごとに書かれた文章が……。

幼な友達の「文集」を紹介してみよう。

うま

学校のかえりみちで、うまがくるまをひきながら「ボトン。ボトン。」うんこをまっつけてきました。「きたねえぞ」と言うとおじさんが「うんこをふむと大きくなるぞ」とい

ましたら、うまがひひんとなきました。(Y・T男児)

学校へくるとき、こえおけをつんだ車がおった。とてもくさかった。(T・K女児)

舗装された道路は、わずかでほとんどが砂利道。自転車も少なく砂利道を牛馬に引かせた荷車がよく通り、荷台の後からそつと近づき荷台にぶら下がって遊んだ。見つかった「こらあー」と怒鳴られ慌てて逃げ出したりもした。家の前を県道が走つてい

た。もちろん舗装されておらず、砂利道だった。時折この砂利道に風防メガネをかけた運転手が運転台とボディだけの裸のトラックに乗り、20台ぐらいが列をなして砂ぼこりを巻き上げながらブォーと走り去っていく、それは壮観なものであった。

前述したようになにしろ、まだ牛や馬にひかせた荷車が通っていた時代のことだ。子どもながら見ていてワクワクした。つづく

みんなで考えまい!

## 蒲郡のまちづくり

「都市計画マスタープラン」

この前の続き。住民会議でのほかの地区の意見を聞かせて。



そうじゃな、大塚・三谷地区では、両地区ともJRや道路で南北が分断されて、住民の交流ができんとか、まち中の道路が狭くて渋滞を起こしとると言っとったのん。



計画開発課  
☎66・1142

その一方で、自然が多く残つとり、山からも海からも眺めがいいとか、JRも道路もあつて地の利がいいので住みやすい、といった意見があつたぞん。なんでも三谷の人は、『三谷まつり』のために生きとると、という人がようけ居るそうじゃ。



蒲郡や塩津地区の人は、何て言つてたの?

蒲郡の中央では、公共施設や人の集まるトコがようけあつて、生活しやすいとか、山間部では、自然が豊かで、のどかな落ち着いた雰囲気魅力だつて言つとつたなあ。塩津地区では、山も海も工場地帯もあつて、環境に恵まれとるといふ声があつたぞん。ほんでも、いいトコばかりじゃなく、商店街が寂れたとか、安全に歩ける道や幹



次の住民会議で、「いいトコ」はさらに良く、「わるいトコ」は改善するアイデアを、地域でできる事、市がやらにゃいかん事などを考えながら話し合つていくんじゃ。

市民と市が一緒にまちづくりをしんといかんからのん。そいういやあ、詳しいことは、ホームページに載つとたぞん。